

NPO 法人・動物実験の廃止を求める会 (JAVA)

理事長 長谷川 裕一 様

全国大学獣医学関係代表者協議会

会長 稲葉 睦



先般、貴団体よりいただいた要望書（2017年2月28日付け、「獣医学教育における生きた動物を用いた実習に関する要望書」）につきまして、まず、獣医学教育課程における動物実験の有り様に関心をお寄せいただき、また、貴重なご指摘とご示唆をいただいたことに感謝申し上げます。

ご指摘の件につきまして、獣医系大学の教員代表者で構成する本協議会では、次のように現状を認識し、また改善に取り組む方針を打ち出しておりますことをお伝えいたします。

1. 動物実験に関する3Rsに則り、各大学で適正な管理の下、獣医学教育において必要な最小限の動物実験を行っている。
2. 指摘をいただいた犬の飼育環境等については、各大学がその改善に努めている。
3. 獣医学教育における動物実験削減、ならびに代替法の導入に関する世界的な動向に鑑み、日本においても、これらに関する国内獣医系大学全体としての方向性を提示すべく、検討を早急に進める必要がある。
4. 上記認識に基づき、平成29年3月27日に開催した全国大学獣医学関係代表者協議会では、協議会内に検討委員会を設置し、代替法導入の方針と具体策検討を進めることを全会一致で了承した。検討に際しては、現在、獣医学教育コア・カリキュラムに沿い動物実験を組み込んだ実習を行っている状況を踏まえ、関係者間で包括的な議論を行うものとする。

本協議会では、上記の方針に基づいて、各大学の实習における動物実験の状況、代替法への取り組み状況の把握を含め、生体利用の削減と代替法導入を目指した具体策の検討を進めてまいります。例えば、9月の協議会では、上記検討委員会を発足させる予定です。今後とも、ご理解とご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、諸般の理由により、お返事差し上げるのが遅れましたこと、なにとぞご海容いただけますようお願いいたします。